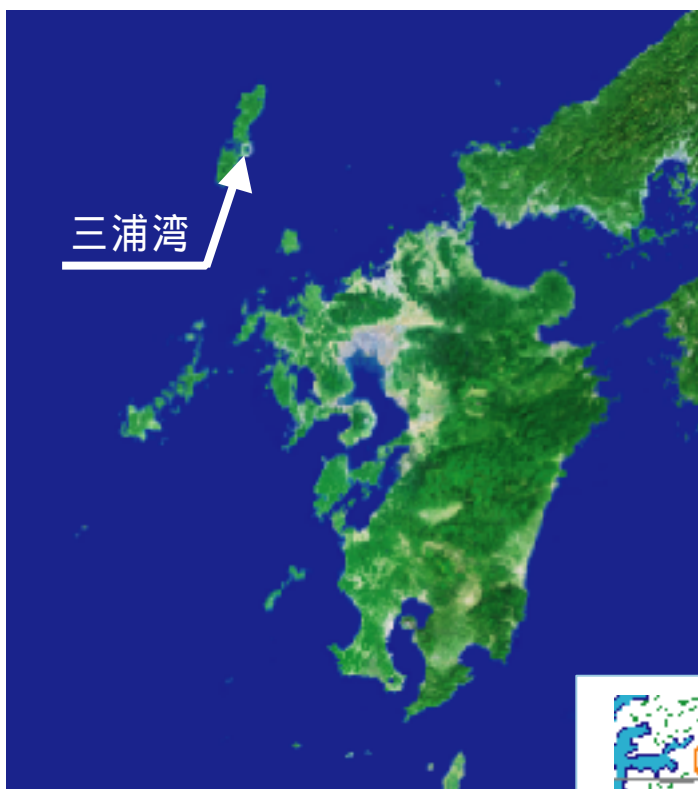


## 海域の概要

本湾は、対馬の中央部に存在する湾で、東側を日本海に開いています。湾内には美津島港が存在します。湾西部の万関瀬戸で、浅茅湾とつながっています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：3.22 km

面積：10.68 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：3.6 m

湾口最大水深：2.9 m

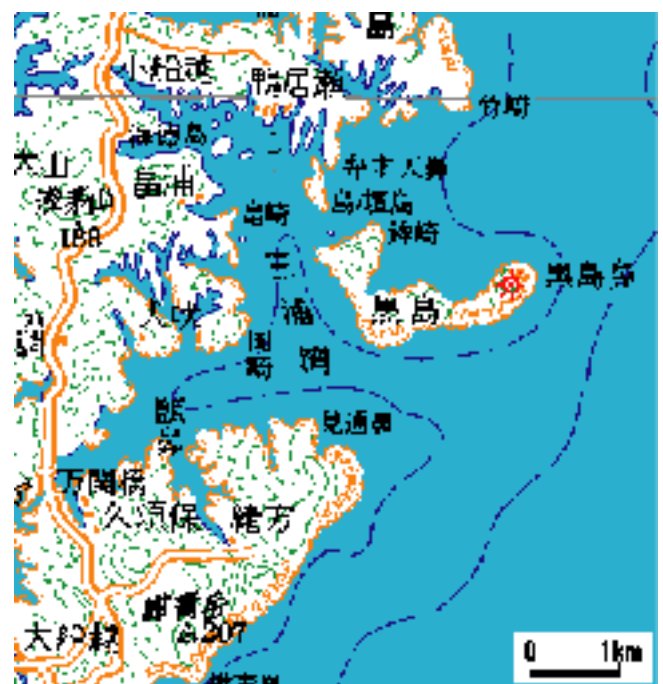
閉鎖度指標：1.26

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

長崎県下県郡美津島町竹崎と同町銚崎を結ぶ線、同町大瀬崎と同町折瀬崎を結ぶ線、同町万関橋、住吉橋及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

対馬の中央東岸に位置し対馬海峡に向けて開いている湾ですが、湾口には黒島があって湾口幅は狭くなっています。気候は、島の周囲を北東に流れる対馬暖流の影響を受けて比較的温暖です。冬季には北西季節風が吹き荒れますが、湾口の黒島の存在と風下に開いている地形のおかげで湾内は比較的静穏です。

湾岸には汚濁要因となる流入河川はほとんどありません。湾南部は、明治時代に切り通された万関瀬戸で、西岸に開いている浅茅湾とつながっています。

大きな流入河川はなく、湾奥部は浅茅湾とつながっています。

湾内の底質は、主に岩で、一部砂となっています。

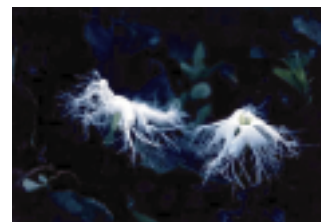
## 自然

久須保・犬吠・緒方地区を総称して三浦湾と呼び、その奥のいくつもの深い入り江と、それを取り巻く多くの美しい岬や小島も多く、素晴らしい景観を見せる、壱岐対馬国定公園に指定された湾です。

湾内には藻場は少ないのですが、湾口部の黒島周辺を中心にガラモ場が分布しています。また、湾北の住吉瀬戸は豊玉姫伝説が伝わる神秘的な瀬戸ですが、海底には、紫藻とよばれる海草が生息し、紫色に見えるため紫瀬戸とも呼ばれています。

湾口の黒島には、環境省特定植物群落に指定された、「対馬・黒島の海浜植生」ならびに「対馬・黒島の海崖植生」がみられます。

対馬には、ここでしか見ることのできない生物や、大陸の流れをくむ生物が数多く生息します。朝鮮半島や大陸から移ってきた植物として、ウスギワングチソウ、オウゴンオニユリ、オオチョウジガマズミ、シマトウヒレン、シロスマレ、ダンギク、チョウセンヤマツツジなどが見られます。特に、チョウセンカラスウリはウリ科で雄雌異株のつる性多年草、キカラスウリの母種で中国、朝鮮半島に産し日本では対馬にのみ分布します。



チョウセンカラスウリ

## 文化歴史

東に湾口を開き、また、黒島が自然の防波堤となり、冬季に北西の強風が対馬海峡に吹き荒れると、この風を避けて中国の漁船が三浦湾沖から高浜湾、根緒沖に停泊し、その光景は冬の風物詩となっています。

また、湾内のかがり松鼻遺跡からは、朝鮮半島を含め我が国では初めての中国製の把頭飾（剣の柄飾り）が出土し、同遺跡から出土した変形細形銅剣、ガラス玉とともに県の有形文化財に指定されています。

対馬の東岸には、イカ定置網が多く、近海ではイカがよく採れます。最近では福岡等の市場へ氷詰め出荷されますが、昔はスルメイカとして天日干しされていました。

湾奥の女護島には、漁船用製氷工場とその積込施設や、県漁連の荷捌所、長崎県の水産改良普及所などがあり、重要な漁業基地になっています。



天日干しのスルメイカ

## 産業